

令和5年度 授業改善全体計画

練馬区立谷原小学校

<関係法令等>
 ・日本国憲法
 ・教育基本法
 ・学習指導要領等

<学校教育目標>
 人間尊重及び社会貢献の精神を基調とし、心身ともに健康で調和のとれた人格形成を目指し、知識基盤の社会の中で力を発揮し、広く国際社会において信頼と尊敬が得られる人間性豊かな児童の育成を図る教育を推進する。
 ◎ よく考える子
 ○ 思いやりのある子
 ○ たくましい子

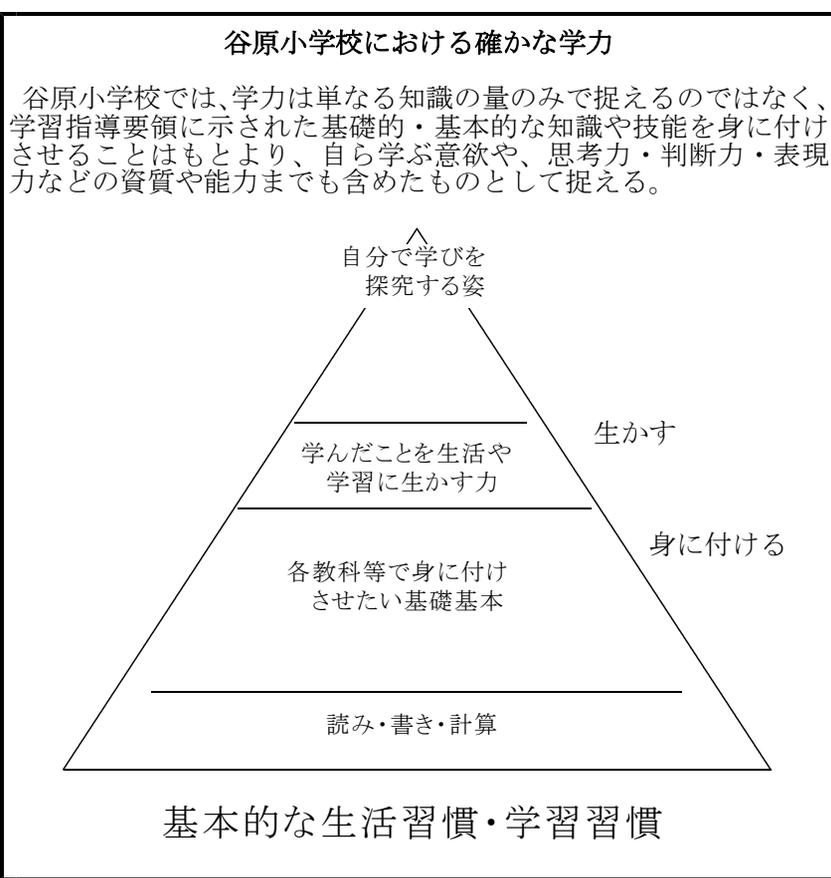
<願い>
 ・児童の実態や願い
 ・保護者の願い
 ・地域社会の願い
 ・PTA 運営委員会からの意見等

- 各教科の指導の重点**
 (国語) 語彙を増やし、自分の考えや意図などを伝える力を伸ばすため、文学教材の読みの指導を工夫し、それを支える日常の言語環境を整える。
- (社会) 実感を伴った学習が進められるように、見学調査等を効果的に取り入れるとともに、資料の読み取りの力を養う。
- (算数) 習熟度に応じた指導を充実し、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。
- (理科) 教材園の教材化を推進し、問題解決的な学習指導を工夫するとともに、基礎・基本の確実な定着を図る。
- (生活) 具体的な活動や体験を通し、生活上必要な習慣や技能を身に付け、自立への基礎を養う。
- (音楽) 音楽を愛好する心情と感性を育み、思いや意図を主体的に表現する姿勢を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培う。
- (図画工作) 集中して表現活動を継続させ、制作過程を大切に表現する喜びと、完成したときの喜びを味わわせる。
- (家庭) 「安全・協力・楽しく」を授業の基本とする。興味関心、意欲を大切に、学習したことを身近な生活にもすすんで取り入れられるような授業の工夫を行う。
- (体育) 多くの活動時間を確保した授業に取り組む。友達と協働しながら体力の向上を図る。子供の工夫する力を伸ばし運動に親しむ資質や能力を育てる。
- 総合的な学習の時間の指導の重点**
 ～親しむ・捉える・深め広げる～
 ・様々な人々とふれあい、視野を広げ、各教科・道徳および特別活動で身に付けた力が総合的に働くよう指導する。
 ・課題解決に向けて主体的・創造的に取り組む態度を育て、自らの生き方を考えることのできる児童の育成を図る。

学校経営計画 (学力に関して)
「学ぶ力を育成・定着させる」
 (学習指導の目標)
 基礎基本を重視し、その内容の定着を図るとともに、思考力や判断力、表現力を高め、主体的に対応できる子供を育成する。
 (学習指導の指針)
 ・谷原スタンダードの確実な実践を行い、全学年で系統的な指導、振り返りの展開。
 ・学ぶ意欲や考え話し合う態度を高めていく指導の展開。
 ・ICT 機器を継続的に活用し、学習意欲と学習効果の向上。
 ・一人一人の目標をより明確化し、ユニバーサルデザインの発想を生かし、個に応じた指導の展開。

国・都学力学習調査より(5、6年)
 (国語)
 ・事実や意見などを区別し、自分の考えを明確にもたせ、適切に表現できるよう言語活動を充実させる。
 (算数)
 ・ドリル的な反復学習を充実させることで基礎基本の定着を図る。授業の中で、問題の意味を説明したり、図式化したりする時間を増やす。

道徳教育の指導の重点
 ・教育活動全体を通して、教師と児童および児童相互の人間関係を一層深め、自他の生命並びに個性を尊び、自分に誇りを持ち他を思いやる豊かな心と道徳的実践力の育成に努める。
 ・ボランティア活動、体験活動などを通して、よりよい生き方について自覚させ、児童の内面に根ざした道徳性の育成を図る。
 ・充実した生活を送るために基本的な生活習慣を身に付ける。自分の生活を見直し、自分を客観視するために自分の現状を内省することで自己の確立を目指す。



特別活動の指導の重点
 ・学級活動や学年、きょうだい学年など教育活動全体を通して、自主性を養うとともに、集団の一員としての自覚を高め、積極的に実践する態度を育てる。
 ・クラブ活動について、地域の方々や保護者の協力を仰ぎ、児童の個性の伸長に努める。

生活指導の重点
 ・基本的生活習慣の定着や言語環境の整備を通して、規範意識を育て、安定した生活ができる児童の育成を徹底する。
 ・一人一人の児童理解を深めるとともに、全職員で児童を見守り指導していく体制を強化する。いじめや不登校、学級の荒れなどの諸問題を早期発見する。
 ・生活指導上の諸問題の解決に全職員で共通理解を図り共通実践する。
 ・情報モラルや情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度を培う指導を行う。

キャリア教育の指導の重点
 ・児童に自分の個性やよさ・可能性に気かけ自尊感情を育てるとともに、中学校と連携して、進路を選択し自己実現を図る能力、勤労観や職業観を養う指導に努める。

外国語科・外国語活動
 外国語による聞くこと、話すこと、書くこと、読むことと言語活動を通して、外国語の音声やリズムに慣れ親しみ、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度や技能を養う。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫・教育環境の整備	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> 体験的・問題解決的な学習や情報活用を通じた学習を重視する。 習熟度別指導の工夫をする。 発展的な学習・補充的な学習を開発する。 理解度に応じた柔軟かつきめ細かい指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任と指導方法工夫改善加配教員および学力向上支援講師を活用し、きめ細かな算数科の授業の充実を図る。 学校図書館、学級文庫を整備し、読書や読み聞かせなどの活用を充実させ、言語環境を向上させる。 学校教材園等の校庭環境を活用して、体験的学習指導の工夫を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業力向上および日常の学級経営充実の両面から研究を進める。 体育健康教育推進校としての研究をまとめ、発表を行う。 コロナ禍における児童の体力低下の実態を基に意欲や体力を高める場の設定と指導の工夫を追究する。 	<ul style="list-style-type: none"> 座席表を活用した児童の見取りを行い、評価素材を蓄積し、確かな根拠に基づいて説明責任を十分に果たす。信頼ある評価を実施する。 児童の自己評価の結果を授業改善に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開の実施や道徳授業地区公開講座の実施を通して教育活動の発信を積極的に行う。 谷原小地域未来塾を立ち上げ、地域人材を活用して児童の基礎学力と学習意欲等の向上を図る。 ゲストティーチャーや保護者ボランティア団体による読み聞かせなど、地域人材を活用し学校地域と協同して教育活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 校区別協議会の各分科会における協議内容を活用する。 小中一貫教育実践校および研究グループの実践例を活用し、小中のスムーズな連携を図るとともに近隣校とも教育活動を通して交流する。課題改善カリキュラムの検証を繰り返し、より実行性の高い計画を目指す。

国語科・指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補足的・発展的な学習指導計画
一年	<ul style="list-style-type: none"> ・(書く) 作文学習のときに、拗音、促音のある言葉や、「を・は・へ」の使い方を指導する必要がある。 ・伝えたいことを表現するための語彙を増やす必要がある。 ・正しい鉛筆の持ち方、姿勢、書き順、字形に気を付けて正しく書くことを意識させる。 ・(話す・聞く) 正しい話し方や話し言葉を復唱させる指導がまだ不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(書く) 自分の書いた文を声に出して読ませる。書けない語や文については、教師が口頭で補うなどの支援をする。 ・実物を用意したり、映像を見せたり、補足説明を行ったりする。 ・掲示物で視覚的に意識したり、授業の合間に声を掛けたりする。 ・分かりやすい見本文の提示、共通教材と個別教材を組み合わせるなどの工夫を行う。 ・(話す・聞く) 聞き手や目的を意識させ、「知らせたい」「話したい」「聞いてもらいたい」という思いが自然に生まれるような教材を工夫する。 	<p>(補充) 表現に必要な語彙を増やすために言葉遊びをしたり、言葉集めをしたりする活動を日常的に行う。</p> <p>書写の時間を定期的に設けて、正しい持ち方、書き順、点画の書き方を身に付けさせる。</p> <p>朝の会のスピーチで話し方、聞き方の正しいやりとりを身に付ける。</p> <p>(発展) グループ学習などを取り入れ、児童がお互いに交流できる場を設定する。</p> <p>単元に合わせた平行読書を行う。</p>
二年	<ul style="list-style-type: none"> ・読むことに比べ、話すことや書くことなどの表現力についての定着が不十分である。 ・聞く力については個人差があるので、個に応じた指導が必要である。 ・説明的文章を読むことについては、児童の生活経験を把握して展開する指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が体験したこと、観察したことなどを書かせたり、発表させたりする機会を多く設け、物事を順序立てて相手に分かりやすく伝える力を身に付けさせる。 ・書くことに関しては、分かりやすいモデル文の提示、共通教材と個別教材を組み合わせるなどの工夫を行う。 ・聞くことに関しては、必要な事柄を考え、メモを取るなどの工夫をさせる。 ・補助資料や補足説明で経験の乏しい児童も分かりやすく学習できるようにする。 	<p>(補充) 話す、書く際、キーワードを使って考えること、文の組み立てを考えること(始め・中・おわり)を繰り返し指導する。学習の振り返りを書く時間を作る、行事絵日記に取り組むなど、書くことに慣れさせる。</p> <p>(発展) 本の読み聞かせやストーリーテリングなどによって聞く力を身に付けさせる。そして、これらの実践によって総合的な言語能力を高める。</p>
三年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを言葉で表現したり伝え合ったりする場の設定が十分でない。 ・言語力、読む力、大事なことを落とさず聞いたり話したりする力については個人差が大きい。 ・他の教科の内容理解にもつながるため日常から言語環境を整える工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が体験したこと、観察したこと、考えたことなどを書かせたり、発表させたりする機会を多く設け、物事を順序立てて相手に分かりやすく伝える力を身に付けさせる。 ・個に応じた、言葉を補ったり、視覚的に理解しやすい教材の工夫を行ったりする。 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使えるよう指導を工夫する。 ・目的に応じた話し方ができるように話型を提示する等、言語環境を整える工夫をする。 ・国語辞典で調べる活動を増やす。 	<p>(補充) 話す、書く際、キーワードを使って考えること、文の組み立てを考えること(始め・中・終わり)を繰り返し指導する。言葉や文のモデルを選択できるような教材を工夫する。</p> <p>(発展) 音読の中に詩や俳句などを取り入れ、さまざまな日本語の響きや美しさに触れさせる。</p>
四年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめたり表現したりする能力を高める指導が不十分である。 ・日常の言語環境を整える活動をさらに重視する必要がある。 ・説明的文章の指導は、文学的文章 	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことに関しては、分かりやすい見本文の提示、共通教材と個別教材を組み合わせるなど工夫を行う。 ・週3回の朝読書と週1回の図書の間時間を確保し、多くの語彙にふれる機会をもたせる。 	<p>(補充) 興味を示している詩の暗唱を深め、創作表現にも発展させる。興味ある分野の本や学習内容に関連する本を紹介し、読書量を増やす。</p> <p>追いかけて読みや範読に合わせて</p>

	<p>に比べ、関心を高め、読み取らせる指導が不十分である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを友達に伝えたり、友達の話を聞いたりする能力を高める指導が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語・漢和辞典で調べる活動を増やす。 原稿を書いてスピーチをしたり、メモを取ったりしながら話を聞いたりする機会を多くもたせる。 説明的文章においては、身近な生活との関連を意識させることを通して慣れさせる。活用の部分で自分の興味を生かせるようにする。 自分の考えを小グループで話し合う時間を設け、話を聞くことや自分の意見を伝えることができる機会を多くもたせる。 	<p>読む活動を通して、音読の力をつける。</p> <p>(発展) 辞典で調べた漢字の部首や意味に興味をもたせ、文章表現に活用できるように促す。</p>
五年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをまとめたり表現したりする能力を高める指導が不十分である。 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の考えと比べるなどする力が十分でない。 本や文章を読んで、自分の考えをもったり意見を深めたりさせる指導が不十分である。 説明的文章について全体で共有できる読み取り指導が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 書くことに関しては、分かりやすい見本文の提示、共通教材と個別教材を組み合わせるなどの工夫を行う。 話すことについては、メモを利用して話せるよう、引き続き指導を行う。 文学的教材の読み取り学習を深めさせるために話し合い活動を取り入れ、自分の考えをもつきっかけとしたり、意見を深めたりさせる。 朝読書の時間を確保する。学校司書より本の紹介を受けたり、いろいろな読み方を知らせてもらったりして読書の楽しみ方を広げる。読書を通して、考えを広げたり深めたり多くの語彙に触れたりする機会をつくる。 説明的文章の読み方に慣れさせるとともに、活用の部分で自分の興味を生かせるようにする。 	<p>(補充) 朝の会でスピーチや対話を行う。話を聞き取って要旨をまとめる、スピーチメモ・出来事などを書く活動を日常的に行う。</p> <p>(発展) クラス・学年・兄弟学年との交流の場を設定し、発表やインタビューの機会を増やす。自分の目的に応じて複数の本や文章を選んで比べて読ませる。</p>
六年	<ul style="list-style-type: none"> 書く場面をできるだけ設定しているが、自分の考えをはっきりさせ意図を明確にして効果的に書く能力を高める指導が不十分である。 常に読む本を身近に置いて読書する指導をしているが、読書の質・量ともに不十分である。 説明的文章を要約したり要旨をまとめたりする指導法に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 書くことに関しては、分かりやすい見本文の提示、共通教材と個別教材を組み合わせるなどの工夫を行う。 スピーチ原稿の書き方を、テーマを決めて計画的に行い、意図が伝わる話の組み立てを工夫させる。 朝読書の時間を確保する。学校司書より本の紹介を受けたり、いろいろな読み方を知らせてもらったりして読書の楽しみ方を広げる。読書を通して、考えを広げたり深めたり多くの語彙に触れたりする機会をつくる。 何度も出てくる語や題名に注目して要約できるようにする。また、問いと答えの書き方の工夫に注目させる。 	<p>(補充) 朝の会でのスピーチを、テーマを決めて行う。スピーチメモを活用し、意図が伝わる工夫した話し方ができるようにする。</p> <p>(発展) 月に1～2編 名文暗唱に取り組み、日本語の美しい響きやリズムに触れさせるようにする。</p> <p>(発展) 新聞記事を読み、記事から考えたことを書き留めておくなど、新聞を通して考えの幅を広げる。</p>

算数科・指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
一年	<ul style="list-style-type: none"> 論理的な思考力を一層育成するための指導が不十分である。 具体的な場面や物を用いて指導しているが、加法や減法の意味を理解させ、適切に計算できる技能への指導に改善点がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ブロックなどの具体物を継続して使い、スモールステップによる段階を踏んだ学習を行い、理解できるようにする。 習熟度別指導では、コースによっては人数を少なくし、個別指導の時間を確保する。 一位数と一位数の加法と減法を答えが10以下、10より大きい数になる加法と減法に分けて、具体物やワークシート、タブレットを用いて繰り返し指導する。 	<p>(補充) ワークシートやタブレットなどで繰り返し数を学んだり数えたり、計算をしたりして学習の定着を図る。</p> <p>(発展) 問題を子供たちが作り、加法や減法の意味を理解し、計算ができるようにする。</p>
二年	<ul style="list-style-type: none"> 論理的な思考力や直観力、また問題解決の能力をより一層育成していく必要がある。 生活における様々な事象との関連を図りつつ、作業的・体験的な活動など数学的活動を積極的に取り入れる必要がある。 基礎的な計算の習熟を図るための時間を設定する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の導入で、タイルや具体物を使って数の構成についての理解を深める。思考の流れをノートに記入し、発表し合ったり友達の考えを聞き合ったりすることで問題解決の考え方を身に付ける。 学習したことを生活に活用できるような具体例を紹介する。 長さや水のかさなど具体物を使って作業し、体感を通して量感を身に付けさせる。 	<p>(補充) 加法および減法の習熟が不十分な場合は、10の構成を中心に、学習内容の徹底を図る。また、適宜個別指導をする。</p> <p>(発展) 学習した内容を基にしてノートにまとめたり、自分で問題を作ったりして理解を深める。</p>
三年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算の習熟を図るための時間を設定する必要がある。 論理的な思考力や直観力、また問題解決の能力をより一層育成していく必要がある。 実生活における様々な事象との関連を図りつつ、作業的・体験的な活動など数学的活動を積極的に取り入れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中でも繰り返し復習に取り組める時間を設定する。 具体物の操作や図を用いて問題を解決したり、自分の考えを説明したりする場を設定する。 児童間で考えの交流を常に図ることができるようになる。 	<p>(補充) 四則計算、特にかけ算九九、繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算の練習を繰り返す。また、適宜個別指導をする。</p> <p>(発展) 算数の学習内容が実生活の中でどのように生かせるか、考える時間を設定する。</p>
四年	<ul style="list-style-type: none"> 論理的な思考力や直観力、また問題解決の能力をより一層育成していく必要がある。 基本的な計算問題においてさらなる技能を高める指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の導入で、既習事項の復習を行い基礎的な内容をおさえる。必要に応じて、乗法や除法についての計算の仕方や、直線の引き方、角のかき方など基礎的・基本的な学習内容の習熟を徹底する。 ICTを活用したペア学習やグループ学習を行い、互いに教え合ったり考えを説明し合ったりする時間を設ける。 	<p>(補充) 乗法や除法計算の習熟が不十分な場合は、かけ算九九の復習を中心に行わせる。また、適宜個別指導をする。</p> <p>(発展) 児童の考えを共有し、統合的に発展的に解決できるようにする。また、児童自らが問題を作る場を設定する。</p>
五年	<ul style="list-style-type: none"> 論理的な思考力や問題解決の能力をより一層育成していく必要がある。 基本的な計算の技能、図形をかく技能の正確性を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 数直線を用いて問題を解決したり、自分の考えを説明したり、全体の理解を深めさせる時間を確保する。その際、ICTを活用して考えを共有する時間を確保する。 授業の導入で、既習事項の復習を行い基礎的な内容をおさえる。また、乗法や除法についての計算の仕方など基礎的・基本的な学習内容の習熟を徹底する時間を確保する。 	<p>(補充) 乗法や除法計算の復習を徹底し、計算練習を繰り返す。問題文を複数回読ませ、内容の理解を促す。また、適宜個別指導をする。</p> <p>(発展) ワークシートを用意し、演習問題を繰り返し行わせる。また、解法を2つ以上考えさせるようにする。</p>

<p>六年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な思考力や直観力、また問題解決の能力をより一層育成していく必要がある。 ・実生活における様々な事象との関連を図りつつ、作業的・体験的な活動など数学的活動を積極的に取り入れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT を活用して児童一人一人に、自分の考えを発表させ、全体の理解を深めさせる時間を確保する。また、グループ学習やペア学習等で考えを交流する時間を設ける。 ・教科書の問題場面や身近な生活から問題を発見できるよう教師の発問を心がける。 	<p>(補充) 乗法や除法計算の復習を徹底し、計算練習を繰り返し行う。問題文を3回読ませ、内容の理解を促す。また、適宜個別指導をする。</p> <p>(発展) ワークシートを用意し、演習問題を繰り返し行わせる。また、解法を2つ以上考えさせ、全体場で発表させる。</p>
-----------	---	--	--

社会科・指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
三年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいや調べる観点をはっきりさせることが不十分である。 ・調べる力(地図・資料の読み取りなど)を全体的に向上させる指導法に課題がある。 ・地域の様子について学習しているが、学んだことが生活の中で活用できるような授業展開に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図やグラフなどの資料の見方、読み方が身に付くよう、問題と資料のつながりを確認しながら繰り返し指導する。 ・用語や基本事項をノートに取らせ、学んだことがはっきり分かるような記録の取らせ方を定着させる。 	<p>(補充)よい気付き、調べ方、まとめ方などの手順やモデルを随時紹介するなどして、学び合いを促す。</p> <p>(発展)調べ学習のための資料や図書などを子供たちがすぐに使えるように、適切なものを事前に用意する。</p>
四年	<ul style="list-style-type: none"> ・調べる力(地図・資料の読み取りなど)、まとめる力を全体的に向上させる指導法に課題がある。 ・学習したことを日常の生活に生かすような指導に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習の機会を多くもち、学習内容を実感できるようにする。 ・地図指導を随時取り入れる。 ・グループ活動や調べたことの発表、意見交流の場を増やし、調べ方やまとめ方の幅を広げる。 ・学習内容を生活の中で結びつけられる活動を取り入れ、宿題などの家庭学習にも結びつける。 ・一人一台端末を活用し、副読本に提示されている二次元コードからの資料なども活用し、さまざまな資料に触れさせる機会を設ける。 	<p>(補充)よい気付きや新しい調べ方、効果的なまとめ方などを随時紹介する。</p> <p>(発展)学習内容に関連する国内、海外の社会的事象にも触れていく。</p> <p>(発展)写真やビデオ、パンフレットなどを効果的に活用できるようにする。</p>
五年	<ul style="list-style-type: none"> ・情報や資料の読み取り方の基礎・基本を身に付けさせる指導が不十分である。 ・資料と社会的事象を関連付けさせる指導を改善する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書から必要な情報を読み取り、ノートにまとめる活動や調べ学習、新聞作り等の作業学習を通して、情報の読み取り方を身に付けさせる。 ・見学活動を効果的に取り入れる。 ・グラフや資料の読み取り方の指導を丁寧に行う。読み取ったことを交流し、全体の学習課題として共有する。 	<p>(補充)地図帳や資料を用いて調べる場や機会を増やす。</p> <p>(発展)調べたことをまとめ発表させたり掲示したりし、一人一人が調べたことが他の人にも分かるようにする。</p>
六年	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史の流れや因果関係をつかむことが難しい。 ・課題に対する自分の考えを友達と交流する時間が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを工夫するとともに、教科書で飛ばされている内容を補完し、関連づける視点や資料を用意する。 ・資料からの気付きや疑問を少人数のグループで話し合う活動を取り入れ、感想を交流する場を多く設ける。 ・タブレットを使って、自分の考えを交流する場を設定する。 	<p>(補充)昔の人々の暮らしに関連する写真などを掲示し、教室環境を整える。</p> <p>(発展)家庭や休み時間等に、インターネットを活用し、いろいろな資料にふれる機会を増やすように促す。</p>

体育科・指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補足的・発展的な学習指導計画
一年	<ul style="list-style-type: none"> • 用具を操作する運動遊びでは、用具に慣れ、楽しんで運動できる指導の工夫が必要である。 • 楽しく運動しながら様々な基本的な動きを経験させる指導に工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> • 用具の大きさや柔らかさ、重さを変えて操作しやすくしたり、かけ声をかけてタイミングをつかませたりして段階的に指導する。 • 「ジャンプワールドであそぼう」など、児童が興味をもちそうな教材名を工夫する。 • 苦手な児童にも配慮し、場や声かけを工夫してどの児童も体を動かす気持ちよさを味わえるようにする。 	<p>(補充) 休み時間の外遊びを奨励し、運動する機会を増やす。 ケンパーや行進などリズムに合わせて動くことを日常でも行う。</p> <p>(発展) 友達のよい動きを見付けたり、工夫した楽しい遊び方を友達に伝えたりできるように指導する。</p>
二年	<ul style="list-style-type: none"> • ボールを使った運動遊びや走・跳の運動遊び、器械・器具を使つての運動遊びなどにおいて、基本的な技能をモールステップで指導しているが、さらに段階を踏んだ指導が必要である。 • それぞれの運動遊びについて、指導法を知り、レパートリーを増やす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 友達同士で教え合う場を設定する。 • 基本的な身体の動かし方については、繰り返し練習させる。 • 簡易的な学習カードを取り入れる。自分の目標を明確にし、意欲的に学習に取り組めるようにする。 • 体つくりの運動遊びを積極的に取り入れ、楽しく体力がつくようにする。 	<p>(補充) 休み時間の外遊びを奨励し、運動する機会を増やす。</p> <p>(発展) 課題に取り組むための適切な「運動遊び」を選び、人や物とのかわりに視点を当てながら指導していく。</p>
三年	<ul style="list-style-type: none"> • 基本的な技能を身に付けさせるために、段階を踏んだ指導が必要である。 • 児童の実態に合った器械運動やボールゲームにおける場の設定やルールの工夫をし、意欲を損なわずに学習に取り組めるようにすることが必要である。 • 素早く行動すること、協力することなど集団行動の徹底した指導が必要である。 • めあてを意識して運動を行うことが十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 基本的な身体の動かし方については、繰り返し練習させたり、ICTを活用して自分の動きを確認させたりするなどを行わせていく。 • ポイントを分かりやすく提示したり、互いに見合う時間を設けたりして、自分のめあてに気付けるようにする。 • 集団行動の指導を大切にし、活動する時間が多く取れるようにする。 • 学習カードの工夫などにより、めあての意識をしっかりとらせる。 	<p>(補充) 外遊びの奨励、個別指導、グループでの学び合いの場の設定などにより、できる喜びを味わわせる。</p> <p>(発展) 学習カードの工夫などにより、高いめあてをもたせる。</p>
四年	<ul style="list-style-type: none"> • 集団行動の基礎・基本、運動の基礎・基本への指導が不十分である。 • 自分の体に関心を持ち、成長を実感できる指導が不十分である。 • 個人差への対応が不十分である。 • 自己の課題を選んだり、互いに動きを見合ったりするための指導が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> • 振り返りカードなどによる自己評価および教師による評価を工夫する。 • 保健領域において、ワークシートやパワーポイントの資料を使用し、成長には個人差があることを学び、友達との成長の違いを理解できるようにする。 • ペア、トリオ学習などを積極的に取り入れ、学び合う姿勢を育てる。 • 課題に合った場作りを工夫する。 • 一人一台端末を使用し、自己の課題を選んだり、互いに動きを見合ったりして、技能を高めていく。 	<p>(補充) 給食指導、外遊びの奨励、整列や正しい姿勢などの指導を継続的に行う。</p> <p>(発展) 学年交流スポーツ大会などを行い、運動する楽しさを味わわせる。</p>

<p>五年</p>	<ul style="list-style-type: none"> •運動の楽しさや喜びを味わわせるための児童に合った指導法に課題がある。 •各自の課題にあつためあて設定の仕方とその振り返り方の指導法に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> •毎時間、自分や友達の動きで感心したことや向上したことを述べさせたり、ノートに記録させたりする。相互に認め合うことで、運動への興味関心を高める。 •タブレットを使い、お互いの動きを録画し、映像をもとに技能ポイント等について伝え合うようにする。 •自分やグループの課題を把握でき、自分の課題に対して具体的に振り返りができる学習カードを用意する。 	<p>(補充)クラス遊びや学年合同スポーツ大会で体を十分動かし、運動の楽しさを味わわせる。</p> <p>(発展)体力づくりを意識した運動をさせ、自分たちでゲームを作ることができるようにする。</p>
<p>六年</p>	<ul style="list-style-type: none"> •短距離走・リレー等、互いに教え合う場を設定するが、「相手のよさ」に気づき、教え合い、互いに向上できるような指導法に改善点がある。 •各自の課題にあつためあて設定の仕方とその振り返り方における指導法に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> •感じたことを相手に伝えたり、よさを話し合ったり、技を発表する場面を多く設定したりすることで、互いに向上しようとする意識が芽生え、十分に達成感を味わえるようにする。 •タブレットを使い、お互いの動きを録画し、映像をもとに技能ポイント等について伝え合うようにする。 •自分やグループの課題を把握でき、自分の課題に対して具体的に振り返りができる学習カードを用意する。 	<p>(補充)休み時間や放課後の時間でも、折に触れ、励まし合ったり、声を掛け合ったりするように促す。</p> <p>(発展)学習発表会(土曜公開などで体育の成果を発表する場を設ける)を開き、これまでの努力の成果を知ってもらおう場をもつ。</p>

生活科・指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
一年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめで、カードに発見したことや気付いたことなどを表現する際、気付きを表すのが苦手な児童への指導に課題がある。 ・皆と一緒に活動できない児童への支援において、さらに改善できる点がある。 ・学校案内や公園巡りなどは、2年生と交流しながら行っているが、さらに身近な人々や社会との関わりを深めさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が手本を示したり個別に対応したりして、児童の思いを聞き取りながら、児童の思いや願いが表せるように手助けをする。 ・意図的にグループ分けをしたり、場合によっては教師も中に入って一緒に活動したりする。 ・今後も2年生と秋の公園で遊んだり、昔遊びを教えてもらったりするなど、交流活動をできるかぎり取り入れる。 	<p>(補充) 国語科、図画工作科、音楽科など他教科などとの関連を図り、指導の効果を高めていく。</p> <p>(発展) 動植物などに興味をもっている児童には、図鑑やタブレットなどで調べることができるように環境を整える。</p>
二年	<ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことや自分の考えを表現することが苦手な児童への指導に課題がある。 ・交流活動は主に1年生への学校案内や公園巡り等がある。グループ活動が苦手な児童への支援をしていかななくてはならない。 ・「あしたへつなぐ自分たんけん」では、自分の成長を振り返る活動の中で、周りの人たちの支えがあることに気付かせ、また、未来を見つめていけるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科で学習したことを生活科の活動の中に適切に生かす。 ・タブレットを活用して、いろいろな視点で観察できるようにする。 ・交流活動は早めに計画を立て、発表練習のための時間を十分に確保することで自覚を高め、自信をもって臨めるようにする。また、意図的にグループを設定し、グループの児童同士で交流の支援をしていく。 ・「あしたへつなぐ自分たんけん」では、家族をはじめ地域の多くの人たちとの関わり合いに感謝し、これからの自分をどのようにしていきたいかを考え、実行できる指導内容とする。 	<p>(補充) 発表のグループを少人数にして抵抗感を無くす。日記、作文、新聞などを通し、読む人に様子が分かる書き方を指導する。</p> <p>(発展) 学区域内で訪問可能な所を教員が開拓し、地域の人々との関わりを位置付ける。</p> <p>(発展) 「一年生におしえよう」「谷原っ子まつり」など、それぞれ一緒に活動する学年が違うので、相手に応じた関わり方を学ばせる。</p>

図画工作科・指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
一 年	<ul style="list-style-type: none"> ・表現ごとのはさみやのりなどの用具の使い方の指導を継続する必要がある。 ・絵を描いたり工作したりする活動において表したいことを見付ける力が十分でない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的にはさみやのりなどの用具を使う場を多く設定して、習熟させる。 ・お互いの発想を共有し合う場を設定し、話し合いを通してイメージを広げる。 ・児童の「やってみたい。」という発想を大事にして、自分の思いを表現することを繰り返し学習する。 ・イメージをもちにくい児童には個別に指導をする。 	<p>(補充) 児童が表したいことに合わせて、思いのままに進められるように、必要に応じて様々な材料を用意しておく。</p> <p>休み時間等に粘土遊び、折り紙遊びの時間を取り入れ、表現する場をより多く設定する。</p> <p>(発展) 児童の表したいことを思いのままに表して、みんなで一つの作品をつくる。</p>
二 年	<ul style="list-style-type: none"> ・表現に合わせた用具の使い方の指導が十分でない。 ・絵を描いたり工作したりする活動において表したいことを見付ける力が十分でない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つくりたいものをつくったり、表したいものを表したりする過程で、繰り返し使い、身に付けさせる。 ・イメージをもちにくい児童には個別に指導をする。 	<p>(補充) 個別指導で繰り返し教える。</p> <p>(発展) 様々な材料を用意してより工夫させたり、友達の作品をみてよさを見付けたりする。</p>
三 年	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の具の出し方、パレットの使い方などまだ学習の過程である。筆の扱い、水加減、混色などの基本をおさえることができていない。 ・色々な材料を扱う機会を増やして発想を豊かにできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・描いたりつくったりする活動を繰り返して行うことで、基本的な技能を学習する。(様々な場面での活用を考える) ・紙、木、土、その他身の回りにある材料に触れて使う機会を多くもてるようにする。 	<p>(補充) 使い方がなかなか定着しない児童には個別に指導する。</p> <p>(発展) 試す、見付ける、遊ぶなどの要素を取り入れる。</p> <p>自分で選ぶ、決めることにより、自己表現力をより高めるようにする。</p>
四 年	<ul style="list-style-type: none"> ・用具や材料のよさを生かして表現しようとする活動が十分とはいえない。 ・対話を通して互いに高め合う関わり合いに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具や材料のよさを生かして表現している様子を共有し合う時間を設定し、継続的に指導する。 ・お互いの表現のよさについて具体的に伝え合う活動を通して、表現の違いに気付き、自らの表現に生かせるようにする。 	<p>(補充) 共有したことを実際にやってみるところまで指導し、体験的に学ぶ機会を充実する。</p> <p>(発展) 児童の思いを聞くとともに、進んで考えたり感じたり表現したりしようとする態度を評価する。</p>
五 年	<ul style="list-style-type: none"> ・自らよりよい表現を追求したり深めたりする学習態度に課題がある。 ・対話を通して互いに高め合う関わり合いに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットパソコンで表現を追求しようとする活動の写真をもとに具体的に評価する声かけをする。 ・タブレットパソコンで友達の表現のよいところの写真を撮り、お互いのよさについて具体的に伝え合う活動を通して、表現の多様なよさに気付き、自らの表現に生かせるようにする。 	<p>(補充) タブレットパソコンやワークシート等を用いることで、具体的に活動を振り返ったり経験を生かしたりしやすい学習環境をつくる。</p> <p>(発展) 活動の振り返り際に「もっとよくできるところ」「もっとよくなりたいところ」を視点に考え、よりよい表現を追求する態度を養う。</p>
六 年	<ul style="list-style-type: none"> ・自らよりよい表現を追求したり深めたりする学習態度に課題がある。 ・対話を通して互いに高め合う関わり合いに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板に表現を追求している具体例を提示し、よりよい表現につながる発想や工夫を具体的に共有する。 ・タブレットパソコンで写真を撮り、お互いの表現のよいところを具体的に伝え合う活動を通して、表現の意図や特徴に気付き、見方や考え方を互いに深められるようにする。 	<p>(補充) 電子黒板に基本的な表現方法の具体例を提示し、視覚的に捉えやすいようにする。</p> <p>(発展) 活動の際に「もっとよくできるところ」「もっとよくなりたいところ」を視点に児童と対話することで個別に対応した指導を行う。</p>

家庭科・指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
五年	<ul style="list-style-type: none"> ・何をどのように作るかという計画を大事にして指導している。一方、実生活の体験をもとにできる指導を充実する。 ・全員完成を重視して指導している。能力の差を意識した指導計画と授業展開に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・火を使ってお湯を沸かしたり、手縫いで小物入れを作ったりするなど、実生活で役に立つ技術を身に付けさせる。 ・個人差に応じた指導として、手縫いは5年、ミシンは5、6年と2学年かけて行うなど、考慮していく。 <p>ワークシートに自分に合っためあてや計画を書かせ、指導する。</p>	<p>(補充・発展)ワークシートにより、個々の児童に合った計画作りをさせる。</p> <p>(補充)グループで実習の計画、実践をさせる。</p> <p>(補充)分かりやすい掲示物や、具体物を工夫する。</p> <p>(補充)指導者を複数にして補助していく。</p>
六年	<ul style="list-style-type: none"> ・何をどのように作るかという計画を大事にして指導しているが、児童の興味関心を持続させるような指導計画・評価計画を改めて構築する必要がある。 ・全員完成を重視して指導している。能力の差を意識した指導計画と授業展開法に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを「ふり返しカード」として利用し、自分に合った計画(めあて)をもたせる。 ・日常生活で技術を身に付け工夫することを取り入れる。(例:1食分の献立作り、手洗いの洗濯など。) ・体験活動を重視して、日常生活に役立つような指導内容を工夫していく。(特に食生活についての意識を高めていく。) 	<p>(補充・発展)個々の児童が計画に対して感想をもち、次回につなげられるようにする。</p> <p>(補充)グループでの実習の計画、実践をさせる。</p> <p>(補充)分かりやすい掲示物や、具体物を工夫する。</p> <p>(補充)指導する人数を複数にして補助していく。</p>

音楽科・指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補足的・発展的な学習指導計画
一 年	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を感じ取ったり、情景を思い浮かべたりしながら歌えるようにする指導の工夫が必要である。(大声で歌わせるのが指導ではない。) ・身近な楽器を用いて、簡単なリズムや旋律を演奏するが、基礎的な演奏技能を習得する指導の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を聴き、体を動かしたり感じたことを発表したりするなど、自由に表現させる。 ・歌詞を読み情景を想起させ、手話で表現しながら歌うなどし、その曲に合った表現の仕方を工夫させる。 ・カスタネットややすずなどのリズム楽器、木琴などの鍵盤楽器の正しい演奏方法を指導する。 ・自由に演奏させた後、音の強弱や音程の違いなど、気付いたことを発表させる。 	<p>(補充) 歌や鍵盤ハーモニカなどの楽器のテストなどを行い、個別に指導する。</p> <p>(発展) 合唱や合奏を皆の前で行う経験をさせて、音楽に興味をもって、より楽しく活動できるようにする。</p>
二 年	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱では、歌詞の意味を考えたり強弱に気を付けたりするなど、表現の工夫が十分でない。コロナ対応でマスク着用で歌った。 ・鍵盤ハーモニカでは技能の差が大きく、階名を覚えてはいるが指番号通りに演奏することが難しい。 ・リズムを取ることに苦手意識をもつ児童に興味関心をもたせる工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習曲に手話を入れることで、歌詞の意味の理解や強弱の意識を図る。 ・鍵盤ハーモニカの演奏については、個別指導および反復練習を行う。 ・簡単なリズムや旋律を表現する活動を毎時間取り入れる。 ・コロナ対応により、手話や身体表現(やわらっこ体操など)の指導を取り入れる。 	<p>(補充) 歌や鍵盤ハーモニカなどの楽器のテストなどを行い、個別に指導する。</p> <p>(発展) 長期休業の宿題などでも楽器に触れさせていき、少しずつ簡単な曲から練習していき、差を埋めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の場を設け、みんなで演奏することの楽しさや達成感を感じ取らせる。 ・グループで演奏する楽しさを味わわせる。 ・速さやリズムに変化をつけ、やさしいものから難しいものへと発展させる。
三 年	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生で始まるリコーダーと読譜の指導は、毎時間一定の時間を確保する必要があるが、題材のねらいによってはできない日もあり、習熟への回数が少ない。 ・リコーダーの音は一斉学習の中では、本人にもよく聴き取ることができない。いい音への意識をもたせるには、自分のリコーダーの音を聴き取らせる指導が必要である。 ・歌唱では、曲によって頭声的発声を意識させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間の時間配分により工夫を加え、10分以上のリコーダー奏を確保する。毎時間、「ウォーミングアップ」の時間を取り、演奏方法を確認する。 ・リコーダーの曲ではポイントを絞り、1日に1回は1人で音を出せる場面を設定する。リレー方式だと全体では3分でできる。 ・声の質について少しずつ理解を促し、歌声と地声を分けて声を出すようにする。 	<p>(補充) 読譜、リコーダーについては小テスト、ワークシートから見取り、苦手な子には個別に指導する。</p> <p>(発展) 基礎基本徹底のために行う小テストや実技検定の時間に、合格した子には目をつぶって演奏させたり、「ミニ先生」として教師が指名した児童に教えたりする。</p> <p>(補充) 歌詞唱、音階唱、ハンドサインなどで正しい音程をとれるようにする。</p> <p>(発展) 曲の一部分を二部にして歌わせ、ハーモニーを体験させる。</p>
四 年	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応による音楽活動の制限が緩和されたものの、歌やリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の実技面では、これまで3年間の学習の遅れを十分に挽回できていない状況である。 ・歌唱では、曲によってふさわしい発声が異なることを感じ取って歌えるようにする必要がある。 ・リズムや拍の流れなど音楽の横の構造は多少体験できているが、他の旋律や低音との組み合わせなど音楽の縦の構造はあまり体験できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業においては、技能習熟のための動機付けとポイントを中心におさえることとして、実際の習熟については家庭学習でも行えるようにする。 ・声の質や発声法の違いについての理解を促し、楽曲によって、歌声と地声を分けて声を出すようにする。 ・常時活動と本時の活動の質的関連を図るよう題材構成を工夫するとともに、リズムや旋律等をつくって表現する活動を多く取り入れるようにする。 	<p>(補充) リコーダーと鍵盤ハーモニカの実技を夏休みの課題として課し、子供自らが練習している様子を動画撮影し、オクリンクに提出させる。</p> <p>(発展) 子供同士で教え合う。テスト等に早く合格した児童には、他の児童に分かりやすく教えさせる。</p> <p>(補充) 歌詞唱、音階唱、ハンドサインなどで正しい音程を意識して、歌えるようにする。</p>
五 年	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応による音楽活動の制限が緩和されたものの、歌やリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の実技面では、これまで3年間の学習の遅れを十分に挽回できていない状況である。 ・一人で表現することが恥ずかしくなってくる時期なので、自信をもって一人で表現することに慣れさせたい。 ・自分のパートを演奏するので精一杯の段階から、合わせる気持ちよさを感じ取れる段階に高めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業においては、技能習熟のための動機付けとポイントを中心におさえることとして、実際の習熟については家庭学習でも行えるようにする。 ・曲を短いフレーズに区切り、一人一人の分担唱(奏)の場면을多く設定する。 ・少人数で演奏を互いに聴き合ったり、録音した自分たちの演奏を客観的に聴いたりして、学習のねらいをより具体的に把握させる。 	<p>(補充) リコーダーと鍵盤ハーモニカの実技を夏休みの課題として課し、子供自らが練習している様子を動画撮影し、オクリンクに提出させる。</p> <p>(補充) 器楽曲では曲の一部分だけを対象に実技検定を繰り返す、合格できるまで練習と指導を続ける。</p> <p>(発展) 和音の学習に興味をもって取り組むことができるよう、ハンドベルを活用する。</p>

<p>六 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応による音楽活動の制限が緩和されたものの、歌やリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の実技面では、これまで3年間の学習の遅れを十分に挽回できていない状況である。 ・特に歌の表現では友達の前では、もてる力を発揮することが難しい児童もいる。自分の表現に自信をもたせることが必要である。 ・読譜力に個人差がでているため、演奏の練習時間が有効に活用されていない。読譜力を付ける指導と効果的な音楽学習とのメリハリをつけたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業においては、技能習熟のための動機付けとポイントを中心におさえることとして、実際の習熟については家庭学習でも行えるようにする。 ・まず器楽曲を用いて短いフレーズを選び、一人で表現する場面を多く設定する。併せて、個の表現を尊重して全体でしっかり受け止めさせる。 ・演奏の練習にすぐに取り掛かれるよう、音譜に振り仮名を付けた楽譜も用意し、希望者には配布する。また、毎回の授業では、一斉指導で簡単な読譜を行い、旋律の流れやリズムに親しめるようにする。 	<p>(補充)リコーダーと鍵盤ハーモニカの実技を夏休みの課題として課し、子供自らが練習している様子を動画撮影し、オクリンクに提出させる。</p> <p>(補充)技能的に困難な児童には休み時間などに個別指導を行う。</p> <p>(発展)合奏曲では、早く仕上がった児童には他のパートにもチャレンジさせ合奏の多様な体験をさせる。</p>
----------------	---	--	--

理科・指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
三年	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心を持続させ、観察や実験に目的をもって学習させる指導に課題がある。 ・動植物とのふれあい、自然体験の不足により、予想を立てさせたり、比較して考えさせたりすることに課題がある。 ・理科学的な視点での観察や実験を行うことが十分にできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に動植物のことなどを話題にし、機会があれば触れあえるよう計画していく。 ・問題解決型の学習の仕方を示し、視点を明らかにして観察・実験をさせる。その視点に沿って結果を情報共有し、整理できるようにさせる。 ・観察・実験の視点、観点を明確にしてから行わせる。 ・タブレットで観察するものを撮影しておき継続的に記録する。 	<p>(補充)</p> <p>教科書や NHK のビデオクリップを利用し、実際に見て学べなかったことなどを確認する。</p> <p>(発展)</p> <p>既習内容や観察・実験の視点を基に身近な自然を見直したり、図鑑を活用したりする機会を設け、より多くの情報を収集し整理できるようにする。</p>
四年	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験において正確に記録させる手だてに課題がある。 ・授業において、視聴覚機器を使う機会が少ない。 ・児童が自ら疑問・課題などをもって解決できるよう、興味関心を高めさせることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートやノートを工夫して、観察・実験のめあてや目的をはっきりさせる。 ・導入やまとめに視聴覚機器を効果的に活用する。 ・各自が課題をもち解決していく授業を取り入れる。 ・タブレットで観察したものを撮影しておき継続的に記録する。 	<p>(補充)</p> <p>何のために観察・実験をするかを確認し、分かりやすく説明する。</p> <p>(発展)</p> <p>年間を通して観察する樹木を決め定期的に観察することで、生命を大切にしている心情を育てる。</p>
五年	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型学習を定着させる指導に課題がある。 ・児童自身が疑問・課題をもって解決できるよう興味を高めさせることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型学習の仕方を身に付けさせ、子供が主体的に観察や実験に取り組めるようにする。 ・単元への興味関心を深めるような導入を工夫する。子供たちが単元を通した課題を見付け、単元の計画を考えて観察や実験ができるようにする。 ・タブレットで実験結果をまとめ全体で共有する場面を作る。 	<p>(補充)</p> <p>学習に役立つ資料や NHK のビデオクリップを利用し、授業内で活用ができるようにする。</p> <p>(発展)</p> <p>インターネットを活用した調べ学習を行い、学習への興味・関心をさらに深める。</p>
六年	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型学習で見通しをもたせて取り組ませたが、実験方法をさらに工夫したり考察したりできる力を付ける指導が不十分である。 ・少人数で実験し、一人一人が体験できるようにしているが、実験方法の理解や技能が未熟な面が見られた。各実験に即した人数を考慮する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてをはっきりさせ、実験の手順や結果、考察などノートの書かせ方を工夫する。 ・グループの中で話し合い、実験・観察できるよう、実験方法を工夫したり、道具をそろえたりする。 ・タブレットで考察内容を共有し、結果と考察の違いなどを理解させる手だてとする。 	<p>(補充)</p> <p>教室や理科室その他に、生き物や植物を置いたり、写真や新聞など学習に役立つ資料や本を置いたりして、日常的に自然事象に興味・関心をもたせる。</p> <p>(発展)</p> <p>インターネットを活用した調べ学習を行い、学習への興味・関心をさらに深める。</p>

外国語科・外国語活動 指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補足的・発展的な学習指導計画
三年	<ul style="list-style-type: none"> 英語を話すことに抵抗がある児童が少なく、自然に英語の音声に慣れ親しむための活動を工夫する必要がある。 歌やリズムに乗っているような英語を口にすることはできるが、1対1コミュニケーションの活動に移ると何をすればよいかわからなくなってしまう児童が多く、コミュニケーションを楽しませることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語の音声だけでなく、イラストや写真、デジタル教材などを活用して、視覚的に意味を理解できるように促す。また、扱う表現については、より児童に身近な言葉を選ぶようにして、児童が「言いたい」気持ちになるようにする。 毎時間の流れをはっきりさせたり、ねらいをしっかり伝えたりすることで、何を学習しているのかを分かりやすくする。また、振り返りのワークシートを工夫し、児童自身が「自分ができるようになったこと」に気付けるようにし、意欲を高められるようにする。 	<p>(補) 一人で英語を発話することに抵抗があったり、うまく言えなかったりする際には、ALTや専科教員と一緒に言ったり、ジェスチャーを交えながら単語で伝えたりして、コミュニケーションを図れるようにする。</p> <p>(発) ジェスチャーや表情などにも工夫して伝え合えるようにする。</p> <p>(発) ALTとやりとりする場面を設定し、より英語らしい発音になるように心掛けたり、外国の人とコミュニケーションをとる楽しさを味わったりできるようにする。</p>
四年	<ul style="list-style-type: none"> 英語を話すことに抵抗がある児童がおり、自然に英語の音声に慣れ親しむための活動を工夫する必要がある。 1対1コミュニケーションの活動に移ると何をすればよいかわからなくなってしまう児童が多く、コミュニケーションを楽しませることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項についても、イラストや写真などを提示し、音声だけの慣れ親しみではなく見て意味を想像できるようにする。 簡単な事柄(友達や教師、家族、自分が大切にしている物、学校や家庭での出来事)について、ALTと連携して必要に応じてテキストに出てくる表現に付け加えたり、言い換えたりしながら、より体験的に語彙を増やせるようにする。 	<p>(補) 一人で英語を発話することに抵抗があったり、うまく言えなかったりする際には、ALTや専科教員と一緒に言ったり、ジェスチャーを交えながら単語で伝えたりして、コミュニケーションを図れるようにする。</p> <p>(発) ジェスチャーや表情などにも工夫して伝え合えるようにしたり、相手が言ったことに対して頷く、同意するなどのリアクションを取ったりすることを意識してやりとりを行う。</p> <p>(発) ALTとやりとりする場面を設定し、より英語らしい発音になるように心掛けたり、外国の人とコミュニケーションをとる楽しさを味わったりできるようにする。</p>
五年	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でマスク着用のため口形を見ることができなかったため、外国語の文字と音声を一致させる指導時間が不足している。 外国語活動で音声的に慣れ親しんだ内容について、外国語科の授業内で効果的に生かせていない。 言語活動を行うためのコミュニケーションの場の設定が不十分なために、パターン練習化しやすく、児童が自分の気持ちや考えを伝えようとする意欲を高めることができていない。また、一方的に伝える活動になり相手意識をもたせることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 発音しにくい語については、言葉で口や舌の動かし方、息の吐き方を説明し、その上でALTが実際に発話する口の形に着目させる。 必要に応じて3、4年時に使用したテキストで触れた言葉やデジタル教材を提示しながら既習内容を想起させ、学習内容を捕捉する。 一人一台端末を活用した単元のまとめの活動の工夫を行う。タブレットを用いて写真やイラストを基に相手に伝えたり、音声録音機能を使って自身の発音について客観的に捉えたりできるような学習活動や単元のまとめの活動を行う。 	<p>(補) デジタル教科書やタブレットで教科書の二次元コードを読み込んで、映像を見たり音声を聞いたりする。</p> <p>(発) タブレットを活用したり、ALTに聞いたりしながら、教科書に出てくる語以外の事柄についても、基本の表現+自分が言いたいことを組み合わせ、より自分の思いや考えが伝わるように言ったり書いたりする。</p>
六年	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でマスク着用のため口形を見ることができなかったため、外国語の文字と音声を一致させる指導時間が不足している。 言語活動を行うためのコミュニケーションの場の設定が不十分なために、パターン練習化しやすく、児童が自分の気持ちや考えを伝えようとする意欲を高めることができていない。また、一方的に伝える活動になり相手意識をもたせることに課題がある。 アルファベットの書き取りや書き写す技能は、児童によって差が大きく、文字指導を繰り返す必要がある。 中学校への円滑な接続のために、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し、児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりできるようにする指導の必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 発音しにくい語については、言葉で口や舌の動かし方、息の吐き方を説明し、その上でALTが実際に発話する口の形に着目させる。 一人一台端末を活用した単元のまとめの活動の工夫を行う。タブレットを用いて写真やイラストを基に相手に伝えたり、音声録音機能を使って自身の発音について客観的に捉えたりできるような学習活動や単元のまとめの活動を行う。 書く活動を行う際には、手本の位置やなぞり書きの箇所、また自分で選んだ語を当てはめて書く箇所などを工夫したワークシートを作成し、苦手な児童でも正しく書けるように工夫する。 授業時の自己評価による振り返りを行い、英語と日本語の言い方の相違点や類似点に気付いたり、自身の課題や目標設定をしたりできるようにする。 	<p>(補) デジタル教科書やタブレットで教科書の二次元コードを読み込んで、映像を見たり音声を聞いたりする。</p> <p>(発) タブレットを活用したり、ALTに聞いたりしながら、教科書に出てくる語以外の事柄についても、基本の表現+自分が言いたいことを組み合わせ、より自分の思いや考えが伝わるように言ったり書いたりする。</p> <p>(発) 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。また、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。</p>